

第1章

平成30年7月豪雨

- 06 写真で振り返る
- 10 真備地区の概況
- 12 災害の概要
- 14 被害の状況



小田川と高馬川の合流地点=7月7日14時40分ごろ、真備町箭田



市真備支所の1階へ水が流れ込み2階近くまで浸水=7月7日4時ごろ



市消防局による救助活動=7月7日5時ごろ



末政川の堤防が決壊した付近。市街地を流れる濁流=7月7日15時36分



高梁川と小田川の合流地点付近=7月7日16時50分ごろ、真備町川辺



二万橋付近で水没したまちの状況を見る人々=7月7日



二万橋の橋上で待機する消防車や救急車=7月7日16時30分ごろ



ボートで被災者を救助する自衛隊員=7月8日12時20分ごろ、真備町川辺



住宅が水没している様子がかがえる二万橋付近=7月7日6時ごろ



大勢の人が避難した岡田小学校=7月7日14時55分ごろ



緊急消防援助隊らによる救助活動の拠点となった二万橋付近=7月8日11時40分ごろ



救助ボートから撮影した市真備支所(右)=7月8日12時30分ごろ



名古屋市消防航空隊の消防ヘリコプターによる救助活動=7月8日14時10分ごろ



水没した市街地。写真上部に見えるのは井原鉄道の高架=7月8日、真備町川辺



水はひきつつあるも、依然として広範囲が冠水=7月9日10時19分、真備町中心部



災害現場で献花する安倍晋三首相(左から2人目)=7月11日13時40分ごろ



末政川の決壊で土砂やがれきが堆積している有井地区の道路=7月11日11時ごろ



末政川の決壊地点



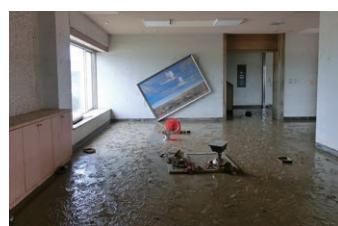
泥で埋め尽くされた真備中学校のグラウンド=7月10日、真備町箭田



水に流されて、道路をふさぐ建物=真備町有井



真谷川の決壊で泥が流れ込んだ田んぼ=7月11日、真備町服部



泥水が流れ込んだ真備東中学校の玄関ホール=7月11日



泥が床にたまり、学用品が散乱した川辺小学校の教室=7月11日



国土交通省の緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)による排水作業=7月8日、真備町川辺

真備地区の概況

倉敷市の北西部に位置する真備地区。河川と丘陵地に囲まれ、歴史資源や農産物など多様な資源が地区の魅力となっている。一方で、古くから大きな水害被害に見舞われた歴史をたどってきた。



「真備」は奈良時代の偉人吉備真備公ゆかりの地。町名は真備公にちなんでつけられている

1 市の概況

本市は、岡山県南西部に位置し、東は岡山市・早島町・玉野市に、西は浅口市・矢掛町に、北は総社市に隣接している。南は瀬戸内海に面し、全国有数の規模を誇る水島コンビナートが形成されている。

市域は県下三大河川の一つに数えられる一級河川高梁川水系高梁川が瀬戸内海に形成した沖積平野と、その後背地である緩やかな丘陵で成り立っており、瀬戸内特有の温暖で降雨量が少ない気候となっている。

地域区分は、一定の生活圏の広がりをもつ倉敷、児島、玉島、水島の4地域および身近な生活圏を担う庄、茶屋町、船穂、真備の4地区で構成され、市全体の人口は約48万人、世帯数は約21万世帯の中核市である。

2 真備地区の地域特性

真備地区は、市の北西部に位置し、地区の東側に一級河川高梁川が北から南へ、中央を高梁川支流の小田川が西から東へ流れている。南北端は丘陵地となり、河川と丘陵地に囲まれた地形となっている。

また、眺望・景観に優れた山林・竹林、日本遺産の構成文化財である箭田大塚古墳、奈良時代を代表する偉人である吉備真備ゆかりの地、タケノコやブドウ、桃を中心とした果樹栽培など、豊かな自然あふれるのどかな田園風景の中に、歴史と文化が息づくまちである。



竹林で開催されたイベント、まび竹林音楽祭

真備地区の位置



国指定史跡の箭田大塚古墳



特産品のタケノコ・果樹

3 真備地区の人口

平成30年6月末（災害前）の人口は2万2,797人、9,006世帯であり、令和6年6月末の人口は、2万348人、世帯数8,824世帯となっている。災害後に人口が約1割減少し、以降横ばいの状況となっている。

■ 災害前後の真備地区の人口

	真備地区			全市		
	平成30年6月	令和6年6月	増減	平成30年6月	令和6年6月	増減
人口(人)	22,797	20,348	-2,449(-10.7%)	482,912	474,254	-8,658(-1.8%)
世帯数(世帯)	9,006	8,824	-182(-2.0%)	209,607	220,983	+11,376(+5.4%)

4 真備地区の水害の歴史

真備地区は、高梁川と小田川の合流部付近に形成された平野部に市街地を形成しており、古くからたびたび大きな浸水被害に見舞われてきた。そのため、河川管理者の国土交通省において、抜本的な治水対策である「小田川合流点付替事業」が平成26年に事業化され、まさに平成30年の秋に工事に着手する直前に平成30年7月豪雨災害が発生した。



明治26年10月洪水 堤防決壊の復旧状況
(倉敷市真備町川辺)



昭和47年7月豪雨 小田川堤防の決壊状況
(倉敷市真備町箭田)

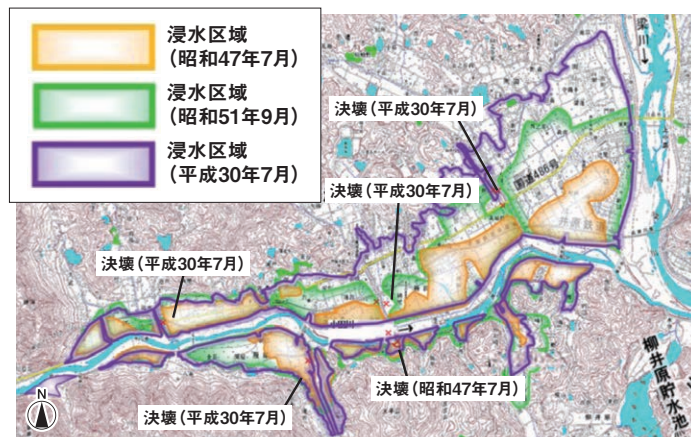
かつての高梁川は、西高梁川と東高梁川の2つに分かれて流れていた。明治26年10月に、既往最大規模の洪水が発生し、至る所で堤防が決壊したことを契機として、当時の内務省が明治44年から大正14年にかけて、東高梁川を締め切り、川幅の広い西高梁川に統合する大改修を行った。

■ 過去の水害の被害(真備地区)

年月	被害概要
明治26年10月	高梁川、小田川、小田川支川の堤防決壊 流出331棟、全壊330棟、半壊477棟、床上浸水825戸、 床下浸水51戸
昭和47年7月	小田川の堤防決壊 床上浸水31棟、床下浸水369棟
昭和51年9月	雨水出水(内水)氾濫 半壊4戸、床上浸水79戸、床下浸水375戸

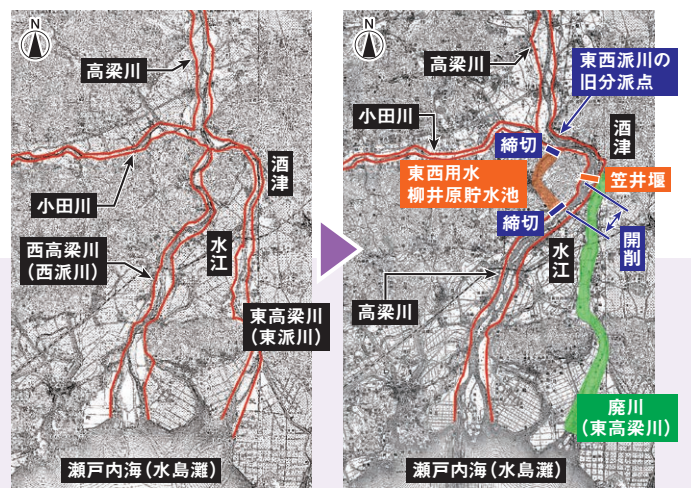
出典：明治26年／備中国水害書(宮内庁書陵部所蔵)、
「明治廿六年水災関係書類 岡山県」所収洪水被害調査表(岡山県立記録資料館所蔵)
昭和47年／昭和47年7月豪雨災害誌(建設省中国地方建設局)
昭和51年／昭和51年9月台風17号災害誌(岡山県)

■ 過去の浸水実績



出典：倉敷市立地適正化計画

■ 明治から大正にかけて行われた高梁川改修の概要



第一期改修着手前

第一期改修完成=大正14年

災害の概要

平成30年7月豪雨をもたらした気象状況や雨量をはじめ、河川堤防の決壊や浸水の状況をまとめた。真備地区では、増水した高梁川に支流の小田川の水が流れ込めなくなる「バックウォーター現象」が発生し、堤防が8カ所決壊するなど、地区の約3割にあたる1,200戸が浸水した。

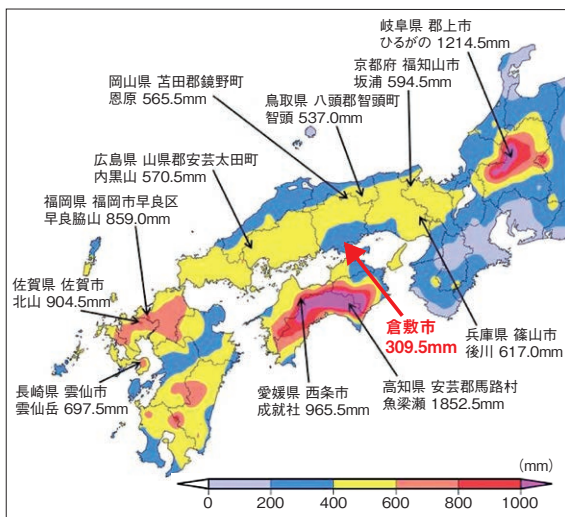


市真備支所から見た浸水したまちの様子

1 気象概況

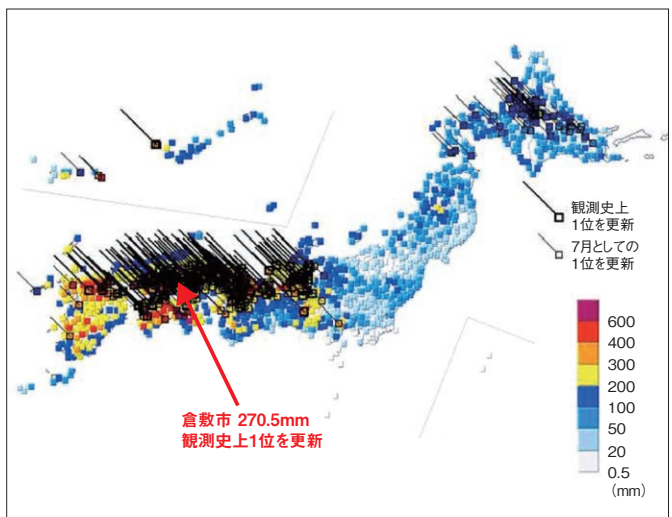
平成30年7月豪雨では、6月28日以降、前線や台風第7号の影響により、温かく湿った空気が流れ込み続けた影響で、西日本を中心に記録的な大雨となった。中国地方の降り始めからの総雨量は450mmを超え、高梁川沿川の新見市で420.0mm、倉敷市では270.5mmという観測史上1位の降水量（48時間累加雨量）を記録した。7月6日夜には岡山県内24市町村に初めて大雨特別警報が発表され、高梁川水系の矢掛・酒津・日羽水位観測所では氾濫危険水位を超過し、観測史上最高水位を記録した。

■ 期間降水量分布図 (6月28日0時～7月8日24時)



出典：気象庁

■ 48時間降水量の期間最大値の分布図 (6月28日0時～7月8日24時)

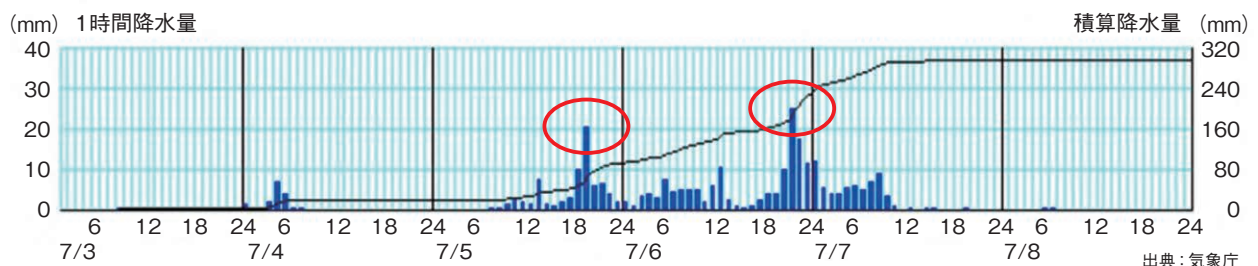


出典：気象庁

2 倉敷市における雨量

倉敷観測所における観測では、7月5日19時ごろと6日21時ごろに時間雨量20mmを超える強い雨となり、6月28日～7月8日の期間降水量は309.5mmとなった。また、日最大降水量は138.5mmで歴代2位、日最大1時間降水量は27.0mmであった。

■ 倉敷観測所における降水量



出典：気象庁

■ 日最大降水量

	1位	2位	3位
倉敷	183.5mm 平成23年9月3日	138.5mm 平成30年7月6日	128mm 平成2年9月19日

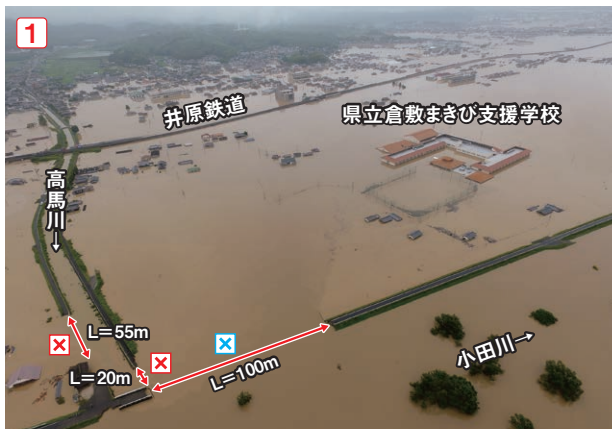
■ 日最大1時間降水量

	1位	2位	3位
倉敷	48.5mm 令和4年8月21日	47mm 平成2年7月29日	38mm 平成8年8月14日

3 河川堤防の決壊および浸水状況

真備地区では、高梁川の支流である小田川が本流の高梁川に合流する際に水が流れ込めなくなる「バックウォーター現象」で水位が高い状態が長時間継続したことなどにより、小田川とその支流の堤防が決壊し、大規模な浸水被害が発生した。国管理の高梁川水系小田川をはじめ、県管理の同水系末政川・高馬川・真谷川において8カ所で堤防が決壊し、7カ所で一部損壊・損傷となり、真備地区4,400戸の約3割にあたる1,200戸が浸水し、深さは最大約5mに及んだ。

■ 真備地区浸水状況



決壊した小田川と高馬川の堤防=7月7日、真備町箭田



浸水した市街地の状況=7月7日、真備町下二万



決壊した小田川堤防=7月7日、真備町箭田

被害の状況

市では75人(災害関連死23人を含む)の尊い命が失われた。全壊4,646棟をはじめ住家被害は約6,000棟、上下水道などのライフラインも被害を受け、市始まって以来の甚大な被害となった。



1階天井上まで浸水した市真備支所



住宅地の被害状況(真備町有井)



水道管の破損状況(真備町服部)

1 人的被害

(人)

人的被害	地区区分		
	真備地区	真備地区外	倉敷市全体
死亡者数 (うち災害関連死)	74 (23)	1	75 (23)
負傷者数(重症)	9	0	9
負傷者数(軽症)	104	7	111

2 住家被害

(棟)

被害程度の区分	地区区分		
	真備地区	真備地区外	倉敷市全体
全壊	4,633	13	4,646
大規模半壊	439	13	452
半壊	382	12	394
一部損壊	121	248	369
床上浸水	26	90	116
合計	5,601	376	5,977

3 ライフラインの被害

種別	被害状況等	対応
上水道	浸水により浄水場機能が停止 送・配水管の流出や継ぎ手部の抜けなど各所での破損により真備地区全域の約8,900戸で断水	7月9日から一部地域で摂取制限を伴う試験通水を開始 (12日から小田川南側全域、14日から小田川北側全域) 7月16日 小田川南側断水解消 7月24日 小田川北側断水解消。真備地区全域で断水解消
下水道	2カ所の下水処理場が浸水し汚水処理機能が停止 (真備浄化センターほか)	7月10日 緊急措置による真備浄化センターの放流開始 令和元年11月29日 本復旧による放流開始(真備浄化センター)
電気	真備地区全域で延べ4,200戸が停電	7月12日 全域で停電解消
有線電話	加入電話等3,100回線、フレッツ光等2,900回線、専用線等60回線が不通に	8月3日 通信ビルの水没による固定電話等の障害が回復
携帯電話	停電および伝送路故障等のため、繋がらない、または繋がりにくい状況が発生	7月8日 大手3社が移動基地局車を配置 7月10日 総務省が移動電源車を配置 7月13日までに通信障害が回復
井原鉄道	地上の電気設備等が浸水し井原鉄道井原線の全区間で運行休止	7月10日 一部再開(三谷駅～神辺駅間) 7月18日～9月2日 総社駅～三谷駅区間をバスで代替輸送 9月3日 全線開通
真備地区コミュニティタクシー	全線休止	8月1日 一部再開(真備復興支援バスによる代走) 平成31年1月4日 全線で運行再開